

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム みちの木 1階	評価実施年月日	平成22年 1月14日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年 1月22日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「地域の中でその人らしく暮らすこと」とはを考え、昨年、運営者・管理者・職員全員でサービスを振り返り、もう一度理念について考え、現在の理念となった。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念について、全員で向き合い、考え、話し合うことができた。取り組みの中での問題点・疑問点が出た時は理念を再確認し、実践へと結びつけている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ご家族には、理念に基づいたケアについて、ご理解いただき、共に実践していただけるよう、来訪時・お便り・家族会等で説明している。地域の方には「みちの木まつり」の開催や運営推進会議報告書を配布したり、日常の暮らしの中の関わりとして行っている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣の人には、率先して挨拶や声かけを行うことを心掛けている。畑作り、除雪等日常生活において、ご指導や助言をいただいている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入し、出来るかぎり行事等に参加している。近隣の小学校に働きかけ、行事へのお誘いをいただき参加させていただいている。ゴミステーションを設置し隣近所に利用していただいている。毎年「みちの木まつり」を開催し、地域の方への参加を呼びかけている。	○ リングプル収集の協力を継続的に行い、児童会等相互間の交流へと広げていきたい。また、小中学校の福祉の外部授業の場として取り入れていただけるよう働きかけを行っていきたい。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の高齢者について、気になる点や情報は伝達しているが、具体的な話し合いには至っていない。見学等に來られたり、興味があり立ち寄られた方には介護相談に応じている。	○ 広い視野を持つ為にも、研修等で取り上げるなど話し合える機会を作りたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>実践を振り返りながら自己評価を行っている。全員で話し合い、取り組みを行っている。又、外部評価の意義は理解されており、評価に対してはミーティング等で話し合い改善を行っている。</p>		
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>サービスの実際、取り組みの状況、活動報告等を行い、ご意見・ご感想をいただいている。話し合いや検討を行い、その都度お答えしサービスの向上に結びつけている。</p>	○	<p>今後も多くの方が参加していただけるような魅力ある会議を開催していきたい。身近な会となるよう意見をいただき「みちの木 森の会」の名称で今後は開催することとなった。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>不明点などは、その都度電話や窓口にて相談・指導を頂いている。また、認定更新の際等にご利用者のニーズ、生活のご様子、ご家族の意向等を具体的に伝えている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>研修会等には参加出来るようにしている。ミーティング等で将来の必要性について話し合うことはあるが、現在は必要性はなく、関係者と話し合い活用するというような支援には至っていない。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>研修会に参加している。日々のケアの中での疑問や不安や、都度話し合いを行い、見過ごさないよう気づきを大切にすることを心掛け、防止に努めている。</p>	○	<p>気づきを職員間でも今以上に伝え合える環境を考え、振り返る場を設ける。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時は全て読み上げ、わかりやすいように補足しながら行っている。不安や疑問点はその場で確認しているが、実際の生活の中で出てくるものもある為、その都度、疑問・不安についてはご理解いただけるように説明している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日常会話や関わりの中で、直接の訴えではなくても汲み取れるよう努めている。意見、不満、苦情をいただいた時は、早急にミーティング等で話し合い改善に努めている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>月1回、「みちの木便り」にて、活動や行事報告を行い、その他にご利用者様それぞれの健康状態・生活の様子等を書いたものを作成し郵送している。金銭管理は来訪時に出納帳をご確認いただいている。通院や生活の中で変化が見られた時は都度、電話にて報告を行っている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>来訪時に確認している。又、家族会にて意見をいただき、報告書にて返答・対策等を知らせている。重要事項説明書に外部機関を明記している。又、契約時には口頭でお伝えしている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>運営者は年に1～2回職員と面談し、意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は日常的に行えるよう努力している。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>ご利用者様の生活リズムや状況の変化に応じ、勤務時間の変更をしている。又、行事時などは勤務時間や人員数を調整している。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>合同で行事を行ったり、日常的に職員はもちろんのこと、ご利用者様も行き来している。ユニット間の異動は最小限に留めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>採用時には、社内マニュアルを活用し、研修を行い月一回のフロアミーティングの際にも、その時々の内容で研修を折り込んでいる。又、外部研修の情報も都度知らせ、受講を促している。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>全国介護事業者協議会や、日本認知症グループホーム協会に入っており、又、清田区ケア連絡協議会やシルバーサービス振興会の研修等にも参加、ネットワークを広げ、サービスの質の向上を意識して取り組んでいる。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>常日頃より職員の表情を気にかけてたり、一声かけながら気軽に話せる雰囲気になるよう努めている。又、親睦会や新年会の集まりには出来るだけ参加してもらえよう、促している。一人ひとりの誕生日には健康で業務に勤しんでくれることに感謝する意味も込めて、花束を贈っている。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>年に一度、新年会にて介護福祉士の資格取得者や勤続年数にて表彰をし、精勤を奨励している。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>ご家族、ケアマネジャー、ソーシャルワーカーの情報を加味しながら、出来るだけご本人と面談させていただけるようお願いし、ご本人自身の多岐にわたる思いを汲み取れるよう努力している。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>電話での相談はもちろんだが、なるべくご見学していただくことをお勧めし、お会いして、現在のサービス利用状況や今までのご家族のご苦労やご本人に対する思いやご要望等を聞かせていただき、段階的に信頼関係を築くことができるよう努力している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	詳しい現況をお伺いし、どの段階なのか何を必要とされていて、どの様な思いを大切にされているのかを見極め、他のサービスや対応方法等のアドバイスも行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人の現状把握に努め、ご本人に何が必要なかの理解を深める為、ご家族に報告・相談を行いながら検討している。職員、他利用者との関係性は段階的に見極めながら行っている。サービス開始検討時は、ご家族・ご利用者様に他のご利用者様と一緒に過ごしていただける時間を提供し、積極的に参加していただけるような場面作りもしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	理念の通り、喜びを共有し合っている。できる事を一緒に見つけたり、できるように一緒に作業する事が日常的である。一緒に行う中で、教わる事もたくさんある。家事や畑、外出などについて、共に話し合い、意見もいただき、取り入れるように努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	通院や外出に協力をいただき、できるだけホームの行事への参加も呼びかけている。ホームでの様子や対応方法を伝え、ご家族からこれまでの生活の情報をいただきながら、ご家族と共に支援に当たっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	過去の生活歴についての情報収集に努め、家族の困り事についても把握するようにしている。情報を共有することで、より良い関係作りに生かしている。毎月のお手紙で生活の様子をお知らせし、行事を企画し一緒に過ごしていただく機会を設けている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族の提供してくれる情報により、友人、知人との手紙のやりとり等支援している。面会や電話の使用は特別な制限はなく、ご家族、友人が来訪しやすい環境作りをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ミーティングや申し送りで情報を共有しながら、日常の座席の他、行事時の座席についても、孤立したりトラブルにならないよう、細心の注意を払っている。入居者同士、お互いに居室にて過ごすことができるよう、配慮している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	年賀状や、行事のお誘いなど、ご家族やご本人の意向に則して連絡を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族から、情報提供をいただく事と共に、傾聴し、ご本人の願いや希望を引き出すよう努めている。又、毎日の暮らしの中でご本人の希望を感じ取るよう努めている。10月から、職員全員でセンター方式シートの記入も始め、ご本人の気持ちに近づけるよう検討しながらケアに当たっている。	○	出来るだけ、ご本人の行きたい場所、行いたい事を実現していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族からの情報をセンター方式シートや、文章に残し、まとめている。必要な事、疑問点は随時電話等で相談し、情報を得ている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ご本人のペースに合わせ、日課や決まり事は極力設けず、気が向いた時に活動に参加できるよう、様々な活動をリビングで行い、自然と目や耳に触れる状況を作っている。ご本人の活動の様子や、そこからの気づきを、個別の動静記録に残し、朝、夕に申し送りをする事で把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	職員全員でモニタリングを行い、計画実行前にご家族へ原案を報告している。又、月一回のミーティングで、ケアプランや日常ケアについての意見交換を職員全員で行い、介護計画を作成している。	○	計画作成の時点で、ご家族や関係者と話し合う機会を設けたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じて見直している。又、1ヵ月ごとに実行の状況を確認している。	○	主治医や看護師等、ホーム外関係者にも介護計画をよく知ってもらったり、カンファレンスに参加してもらえる機会を作っていきたい。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画を参照しながら、個人記録を記載することができる工夫をしている。又、個人記録には「ケアプラン」の欄を設け、実行の有無が確認できる。個人記録の他、病院やご家族とのやり取りをまとめた記録があり、いつでも参照できる。日々の気づきや、ケアについての相談、すり合わせは、毎日の申し送りやミーティングノートで意見交換している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	外出・外泊・通院時へのご要望等には出来る限り、職員間の連携により、支援や準備を行っている。ご本人の状態やご家族の意向に配慮しながら、ご家族への食事提供の声かけや宿泊等の対応もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要性に応じて、地域資源と協力しながら支援できるよう努力している。	○	オープン当初より、平岡中央小学校の資源回収場所にしていただいている。更に交流が深められるようリングブル回収に協力している。運動会・学習発表会にも招待していただき参加している。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要と思われるサービスにおいて、サービス事業者等から情報をいただきながら、ご家族とも充分に話し合いを行いながら支援している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議のたびに、地域包括支援センターの職員の方に出席いただいている。それにより活動もご理解いただき、周辺情報、支援に関する情報交換・提供等、協力関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>心身の状況を伝え、指示・指導をいただいている。また、ご本人・ご家族の要望も伺い、医師に伝えている。必要時には、ご家族の同伴もお願いしている。</p>		
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>専門外来を受診している。日常の様子・変化等を伝え、ご利用者様への負担が最小限になるよう、相談をしながら指導・指示を頂いている。症状の大きな変化時は電話にて対応もいただいている。ご家族へ随時、状態をお伝えし理解していただいた上での受診を支援している。</p>		
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>提携病院、併設の訪問看護を利用し、全員の健康状態を看いただいている。一人ひとりの心身の状態を報告し、書面に残している。急な体調不良時は、電話相談をしている。</p>		
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院へ至る経緯や、ご本人の嗜好、性格的傾向等、必要と思われる情報をできるだけまとめ提供している。</p>	○	<p>情報提供書を使いやすく、わかりやすい物となるよう工夫し、作成したい。</p>
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>ご本人とは、日常会話の中から抽出が出来るよう心掛けている。全ての方には至っていないが、ご家族、かかりつけ医と方針を共有している方もいる。</p>	○	<p>職員間で方針を共有するための勉強会等を開きたい。これから、ご家族と面談をして、意向を把握する予定。</p>
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>医療機関との連携および対応は状況に合わせて、話し合いを行い取り組むことになっている。</p>	○	<p>ご利用者様の状況を冷静に受け止め、「その方にとって」を大切に、チーム支援が行えるような体制を整えていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	ホームからの転居の場合は、ご本人の生活の様子や、言動の特徴、性格的な傾向、好きな事、苦手な事等について詳細な情報提供をしている。逆に、ホームへ入居される際には、面談を行い、ご家族、ケアマネから必要な情報を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	記録や個人情報のファイルの取扱、保管には充分配慮している。居室内はプライバシー空間との認識を持って、整理や清掃はご本人と一緒に、又は、ご家族へ依頼し、一方的な管理は行わない。	○	一人一人の様子を申し送る際、伏字であってもご本人にとっては知られたくない事との認識を深め、プライバシーを損ねないような配慮を工夫したい。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	ご本人の笑顔や、集中される姿などを希望の表出と捉え、支援に活かしている。できるだけ多くの活動に参加する機会を設け、ご本人の好きな事、得意な事、苦手な事の把握に努め、職員が情報共有し、自己決定につなげている。	○	ご本人の考え方に合わせた、説明の方法を職員間で共有したい。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	日課やタイムスケジュールは、できるだけ設けずに、ご本人のペースに合わせている。1日の流れについても、その日の状況や、希望の活動に合わせて、柔軟に変更して対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	理・美容は訪問美容室で対応している。月に1回程度、マニキュアの色を1人ずつ選んでもらい、おしゃれを楽しんでいただいている。ご本人、ご家族の希望のファッションを希望の日に着用できるよう支援している。		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	食卓等で話題になった献立や食材を、ご利用者様と一緒に買いに行ったり、調理する機会を作るよう、努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	コーヒー等、飲み過ぎに注意が必要な物であっても、できるだけ希望に沿えるように、ノンカフェインや牛乳を多めに加える等、工夫して希望時に提供している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	自分で上げ下ろしのしやすい衣類やおむつを工夫し、できるだけ介助を少なく、自分の力で排泄できるよう支援している。ご本人の表情、仕草から尿意・便意を予測し、誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ご本人の希望を組んで声を掛け、入浴をすすめている。	○	ご本人の習慣に合わせた入浴時間の設定ができるか、検討したい(夜間浴等)。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝時間や昼寝の時間は決まっていない。ご本人の自己決定が困難になった場合は、元々の習慣を基準にして、促している。ソファで昼寝もできる環境である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ご本人やご家族から、以前の趣味や得意な事を聞き出し、今のご本人に合わせて、その機会を設けるよう努めている。(手芸、パズル、読み書き、習字等)		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人の希望がある場合には、できるだけ自己管理をしていただいている。	○	普段、自己管理されていなくても、買物付き添い時は自分で支払ができるよう支援したい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	可能な限り、庭に出たり、近所を散歩する機会作りに努めている。	○	戸外に出る機会が日常的となり気軽にいられる工夫をしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご利用者様の意見を取り入れながら、外出レクリエーションを企画し、楽しんでいただけている。ご本人から具体的に「行きたい所」については、ご家族と情報共有し、実現を目指している。	○	行ってみたい場所が具体的に言える方は少ない為、ご本人の生活歴や、馴染みの場所を良く知り、良い刺激となる外出機会を設けたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は自由に使っていただいているが、困った事や不安な事は、職員だけでなく、ご家族へ電話相談してみる事をすすめる事もある。又、月1回の絵手紙教室では、ご本人の希望した相手先へ絵手紙を送る支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	職員だけでなく、入居者もお客様をもてなす気持ちを持ち、来訪者に親しく話しかけられている。居室に限らず、リビングでもゆっくり過ごしていただける環境ができています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束だけではなく、抑制に結びつく行為・言葉にも気をつけている。職員は自らの行為の振り返りを行い、疑問や不安は話し合っている。	○	スピーチロック(言葉による抑制)について、理解を深める職員研修を企画中である。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ご本人の思いを理解するように努め、1人で外へ出ようとされても、声かけを工夫し、危険のないように見守る対応を心掛けている。		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は、誘いかけを中心とした訪室や、さりげない付き添いにて把握している。夜間は、ドアごしの寝息確認と、トイレ時の様子確認を中心に安否を確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ご利用者様の身体機能や認知の段階を見極め、一人ひとりのその時の状態に応じ対応・管理している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故報告書、ひやりはっと報告書により、全職員が確認を行っている。更に、口頭伝達により対策を検討し、再発防止に努めている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	2/3の以上の職員が、救急救命講習を受講しているが、定期的には行えていない。	○	外部講習ではなくても、定期的に全ての職員が訓練を行える体制をとりたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の避難訓練を行うと共に、自主訓練を行い、問題点等を抽出し改善をし、より良い方法等を考えている。運営推進会議にて報告等を行っている。	○	色々なパターンでの自主訓練も考えていきたい。地域の方には、訓練等に参加していただけるような働きかけを行っていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	来訪時及び電話での報告、ケアプラン説明時、月1回郵送の「生活の様子」にて普段の様子を理解していただいた上でリスクについて説明後、相談を行いご利用者・家族の双方にとって負担の少ない対応策を考えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日の血圧・体温測定を記録し、異変時は申し送り、再検している。週1回、訪問看護が入っており、体調の不良は電話で相談している。通院の対応は、リーダーを中心に、臨機応変に行っている。訪看ファイル、通院の記録をまとめ、職員に周知している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬ファイルで、すぐに確認できるようにしている。下剤や安定剤等の調整は、主治医や看護師に相談し、業務日誌で申し送りをしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	ヨーグルトやすりおろしリンゴ、牛乳など、その人に合った食材を試みている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	ご本人の習慣に合わせ、1日2回～4回の口腔ケアをすすめている。訪問歯科で定期健診を行い、必要な方は治療や衛生士の指導を受けている。その方に合ったケア用品を使用している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	好みの食材、飲み物をすすめ、不足しがちな方には、個別購入、提供をしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルに基づき、点検・指導している。「病原菌を持ち込まない・持ち出さない」為に、うがい・手の洗い方・手指の消毒に充分配慮している。布巾、まな板は毎日消毒している。季節に応じた注意事項に気を付け対応している。手すり・洗面台は、1日1回消毒をしている。(汚染時は随時)		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板、包丁は、生物用と野菜用に分け、使用後消毒している。更に、夜間1回熱湯消毒をしている。食材は、その都度購入し、賞味期限を確認して、使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	スロープの設置。玄関前には出来るだけ駐車せず、出入りがしやすいように気を付けている。風除室は季節感を取り入れる為、ご利用者様の手作りのモール等が展示されている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	四季折々の飾りつけを、ご利用者様と共に行っている。また、習字や刺繍など、ご利用者様の作品や、行事や活動の写真を飾っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>玄関前にイスを設置し、一人で座れる場所になっている。又、ソファの配置を工夫し、思い思いに過ごせる空間となるよう工夫している。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>出来るだけ馴染みの物や好みの物を用意していただいている。居室扉横にメモリアルボックスを設け、ご本人がご自分の部屋であることがわかるように、馴染みの物や写真を飾っている。ご家族と共に居心地のよく過ごせるよう、検討し工夫している。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>掃除の際は窓を開けていただけるよう促している。又、臭いに対しては必要に応じ換気している。消臭ボード、脱臭剤等を使用している。温度調整は暖房はサーモにより管理されているが、状況に応じてこまめに対応している。</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりに合わせ、使いやすいイス(背もたれ、ひじかけ、クッションの硬さなど)を個別に配置している。廊下と、トイレ、浴室には手すりを設置。ご利用者様の状況に応じ、手すりを増やすことも行っている。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>声かけや問いかけだけに頼らず、ご利用者様が様々な活動を自然に目にする機会を作り、わかる事や出来る事を見極めるよう努めている。</p>		
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>気軽に庭へ出て、畑仕事や日光浴を楽しめるよう、イスやテーブルを常備している。</p>		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく <input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている <input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

ホームの買い出しに、できる限り入居者と一緒に出掛けている。家族との外出レクの企画を年1~2回、ホームでの交流行事を年1~2回、又、家族会を年3回程度行い、家族同士の交流を図っている。みちの木まつりには、家族ボランティアも参加していただき、地域の皆さんに楽しんでいただける催しを工夫している。ホーム内の畑は、ご家族のご協力をいただきながら、春の種蒔きから収穫までご利用者様と一緒に精を出し、取れた野菜で漬け物まで作ることが出来た。職員、ご利用者様、皆で畑仕事の喜びを感じている。